

「第3次湖南省障がい者計画の見直し・第7期湖南省障がい福祉計画および第3期障がい児福祉計画」策定について（現状・課題・評価）

1 居場所づくり（P36～P37）について

現状

・障がい児ホリデースクール事業の廃止し、日中一時支援事業と放課後等デイサービスを併用しながら、長期休暇における障がいのある児童の日中における活動の場を確保している。

●日中一時支援事業

指標		第5期			第6期		
		H30	R1	R2	R3	R4 R4.12月末	R5
延利用日数	計画値（日/年）	3,300	3,300	3,300	3,720	3,775	3,832
	実績値（日/年）	3,748	3,764	3,630	2,476	1673	
	達成率（%）	114	114	110	67	44	
実施箇所数 （甲賀福祉圏域）	計画値（箇所）	9	9	9	11	11	11
	実績値（箇所）	8	8	8	11	11	

●放課後等デイサービス

指標		第5期			第6期		
		H30	R1	R2	R3	R4 R4.12月末	R5
利用日数	計画値（日/月）	504	544	587	560	609	665
	実績値（日/月）	507	556	498	606	691	
	達成率（%）	101	102	85	108	113	
利用者数	計画値（人）	69	76	84	80	87	95
	実績値（人）	71	80	68	77	87	

課題

- ・障がいへの理解にもとづく共生社会の実現のために、障がいのある子どももいない子どもも共に学び過ごす居場所のさらなる充実を図る必要がある。
- ・障がいのある子どもを持つ親同士の交流の場や情報共有できる場ない。
- ・障がいのある子どもが地域の大人（ボランティア）と交流、接する機会が減少した。
- ・障がいのある子どもにとって、地域の中でほっとできる・つながりを感じられる居場所が少ない。

評価

- ・障がい福祉サービスの提供だけでなく、地域での「つながり」を大切にしながら、今後の子どもたちの活動の場所のあり方について検討する必要がある。
- ・インクルーシブ教育を推進し、ともに育ち、ともに学べる環境整備を支援する必要がある。
- ・単なる「預かり」や「見守り」の場所としてだけでなく、障がいの子どもの「主体的な余暇活動」場所としての居場所づくりを検討する必要がある。

2 相談支援（P45～P46）について

現状

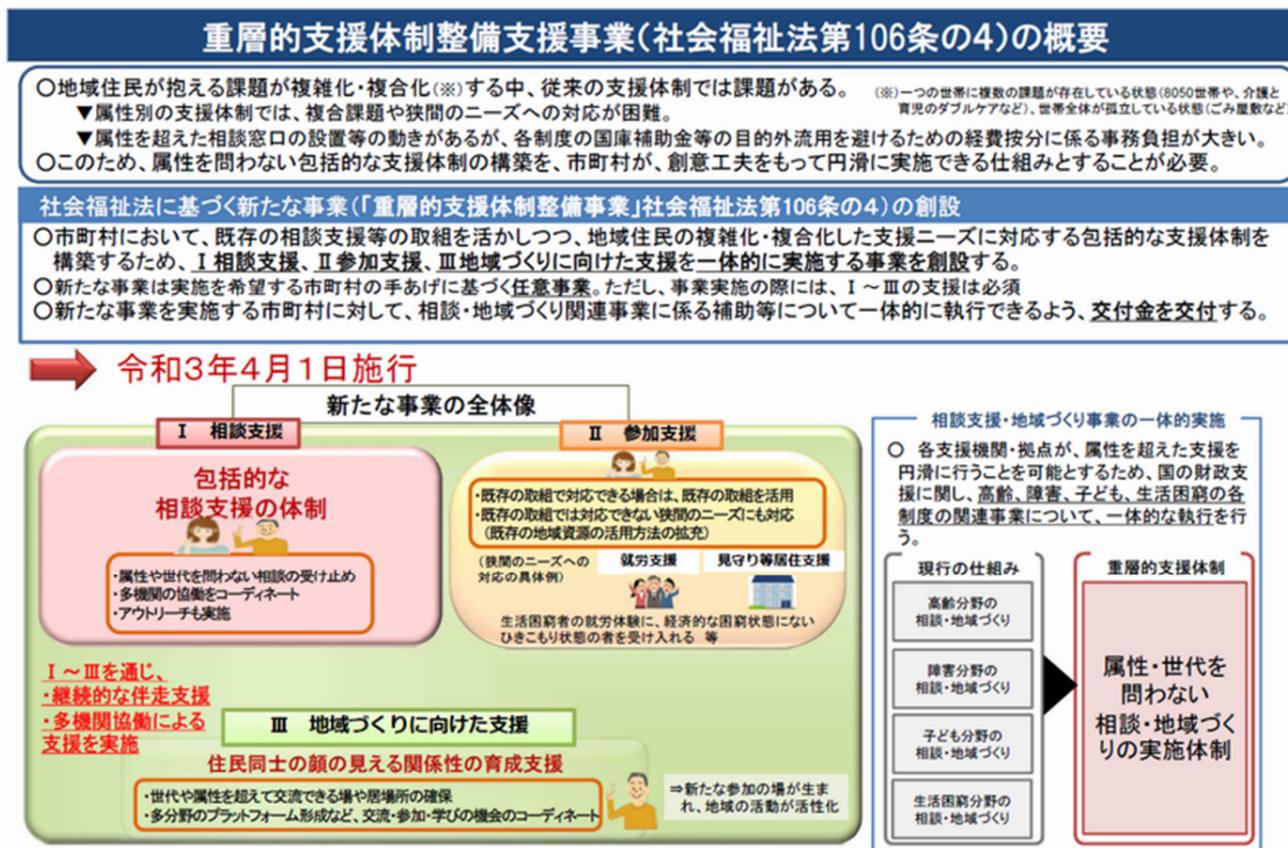
- ・障がいにより、社会とのつながりや社会参加の機会に十分恵まれず、世帯全体が地域から孤立している。
- ・障がいにより、ひきこもりや生活困窮に陥るなど、困りごとが複雑化・複合化している。
- ・8050問題のような世帯内の複合的なニーズや個々のライフステージの変化に柔軟に対応できない。

課題

- ・今までの対象者ごとの支援体制だけでは、様々なニーズへの対応が困難になっている。
- ・人と人、人と社会がつながり支え合う取組が生まれやすい環境を整える新たなアプローチが必要である。

評価

- ・複雑化・複合化する課題に対し、包括的な相談支援をはじめ、地域とのつながりづくりなど、重層的に支援する体制の整備について検討すべきである。



※厚生労働省資料より抜粋

- ・長期にわたりひきこもり状態にある人など、自ら支援につながる人が難しい人への、積極的な働きかけによる情報・支援の提供を行う必要がある。

3 施設入所者の地域生活への移行 (P62) について

現 状

・地域生活の支援体制が十分に整ってとは言い切れない現状において、施設入所者の地域生活への移行は、進んでいない。

●施設入所者の地域への移行

項目	市の数値	国の目標値
令和元年度末時点の入所者数	38人	-
令和5年度末時点の入所者数	41人	37人
【目標値】地域生活移行者数	1人 (2.4%)	3人 (7.9%)

←令和5年度末の施設入所者数を令和元年度末時点施設入所者数から1.6%以上削減

←令和元年度末時点の施設入所者数の6%以上が地域生活へ移行

●施設入所支援

指標		第5期			第6期		
		H30	R1	R2	R3	R4 R4.12月末	R5
利用者数	計画値 (人)	34	34	34	39	40	41
	実績値 (人)	36	38	38	34	38	
	達成率 (%)	106	112	112	87	95	

●グループホーム (共同生活援助)

指標		第5期			第6期		
		H30	R1	R2	R3	R4 R4.12月末	R5
利用者数	計画値 (人)	45	46	47	48	50	52
	実績値 (人)	45	44	46	53	54	
	達成率 (%)	100	96	98	110	108	

課 題

施設入所支援は、甲賀福祉圏域内の入所施設では受け入れが困難な状況があり、施設入所の必要な人の利用が難しい状況である。また、地域生活の支援体制が十分に整っているとは言いきれない現状のサービスの枠組みの中で、現在の施設入所者について、地域生活移行を行うことは、かえってQOLの低下につながるが見込まれる。

グループホームは、地域生活移行の生活の受け皿として、ニーズは年々増大しており、施設入所者や長期入院者の地域生活への移行を促進するためにもサービス基盤のさらなる確保が必要であるが、利用者の経済的な負担の問題や、事業者と利用者のマッチングの問題、グループホーム支援員の人員体制の問題等で、サービス利用が進まない一面もある。また、重度障がいのある人に対応できる施設整備も課題となっている。

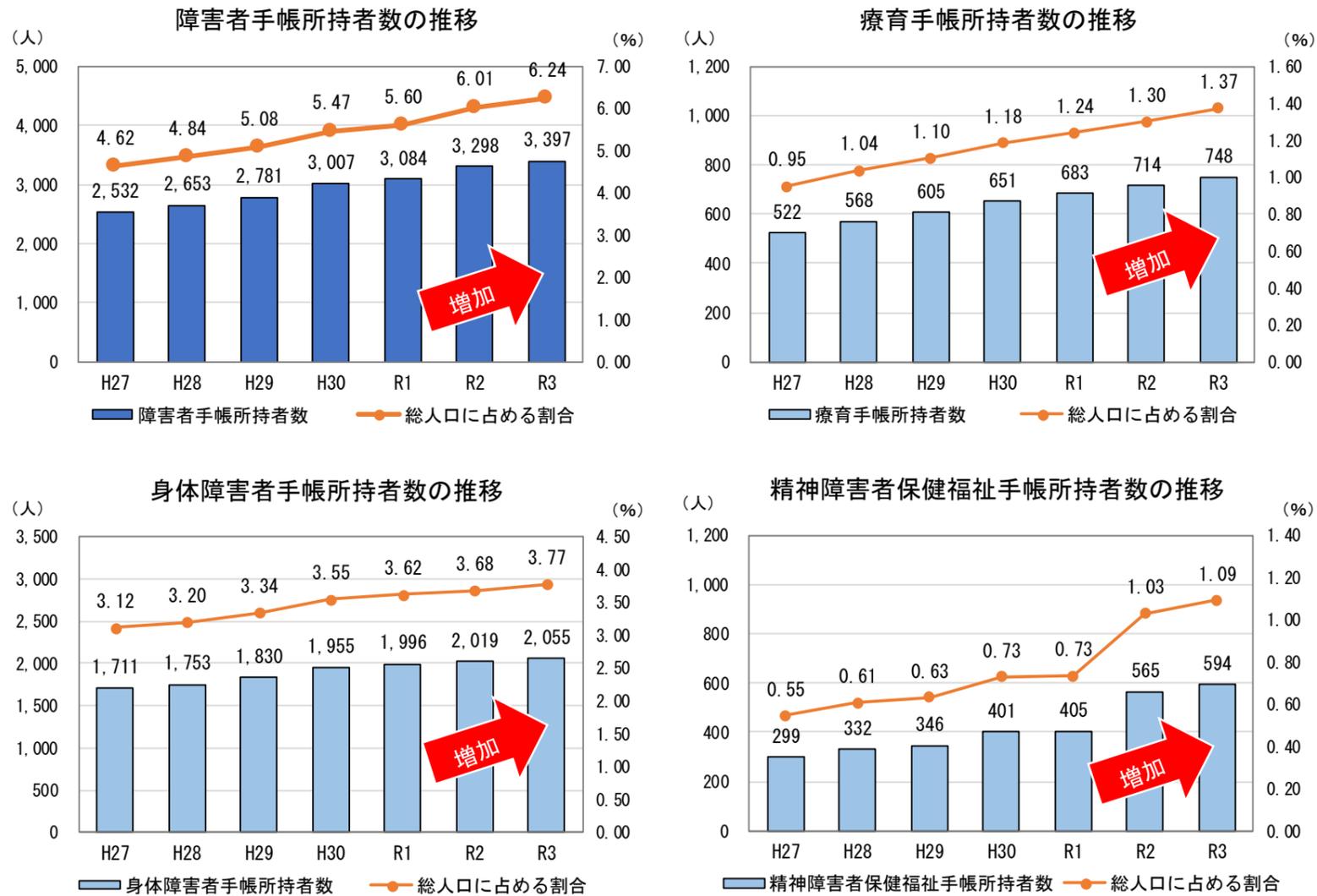
評 価

親なき後の課題解決に向け、きめ細かく身近な地域で支援が提供できる地域生活支援拠点の面的整備を図り、具体的な支援策について検討を進める必要がある。

4 確保方策（P68～P100）について

現状

障がい福祉サービスを利用する障がい者が増加する一方、支援を行う障がい福祉サービス事業所数は横ばいである。



	湖南省		甲賀市
	H29	R4	R4
就労移行支援（一般型）	1	1	4
就労継続支援（A型）	1	2	5
就労継続支援（B型）	7	6	13
就労定着支援	-	0	0
自立訓練（生活訓練）	1	1	1
宿泊型自立訓練	0	0	1
生活介護	6	9	8
療養介護	0	0	1
グループホーム	11	15	32
居宅介護	8	8	8
重度訪問介護	6	6	7
同行援護	3	2	5
行動援護	2	2	1
短期入所（主に身体障がい）	0	0	1
短期入所（主に知的障がい）	4	4	2
短期入所（主に障がい児）	1	1	1
施設入所支援（主に身体障がい）	0	0	1
施設入所支援（主に知的障がい）	4	4	2
障がい児入所支援	1	1	1
児童発達支援	1	1	1
放課後等デイサービス	2	4	8
保育所等訪問支援	1	1	1
合計	60	68	104

課題

今後も障がい者が増加傾向で推移すると想定されるため、障がい福祉サービス等の見込み量も増加傾向となると思われる。しかし、障がい福祉サービス事業所では、職員の確保が大きな課題となっており、見込み量が増加傾向であったとしても、甲賀圏域内の事業所でサービスを十分に提供できる体制を確保できない可能性が出てくる。

評価

人材確保対策について、しっかりと議論をした上で、障がい福祉サービス等の見込みを設定するとともに、甲賀圏域及び市外のサービスも含め、広域的な確保の方策を検討すべきである。